

さんいんワイド

題字
土井 秋音
（城北小6年）



ゴールボールのミニゲームに挑戦する参加者
出雲市上塩治町、上塩治スポーツセンター

ゴールボールの体験会が
20日、出雲市内であり、市

ゴールボール挑戦

出雲 パラ競技理解へ体験会

民ら30人が競技先進地の滋賀県から招かれたスタッフの手ほどきで、ルールやボールの投げ方を学び、パラスポーツや視覚障害への理解を深めた。

ゴールボールは、弱視や全盲の選手が出場するパラリンピックの競技。「アイシールド」と呼ばれる目隠しをして、3人一組で鈴の入ったボールを相手ゴールへ投げ合い、得点を競う。東京パラリンピックでは日本女子チームが銅メダルを獲得した。

参加者は滋賀県ゴールボール協会では、西村秀樹会長のインタビューを掲載しています。



最初はアイシールドで周りが見えず、戸惑っていた参加者も「ボウリングのよな投げ方で」といったアドバイスを受け、ゴール枠に放れるようになり「ナイスポール」と声が飛んだ。

最後はミニゲームに挑戦し、互いに激しい攻防を繰り広げた。家族で参加した市立高浜小6年の片山楓花さん(11)は「最初は怖かったけど楽しめた」と話した。西村会長は「体験を機に、ゴールボールの輪が広がってほしい」と願った。

体験会は、島根大医学部眼科学講座の医療スタッフらでつくるチーム「スサノオアイズ」が開いた。

(佐野卓矢)